

Book Review



ペリオ OTOME メソッド ～器具の愛し方～

山本浩正・熊本宏美・足利奈々・三國かおり・濱上彰子・菊間真奈美・
上田智子・森下明子・小川麻美・谷村妙子・田川舞子・原田芽衣 著

● ● ●

Reviewer

内山 茂 Shigeru Uchiyama
(東京医科歯科大学臨床教授)

AB判, オールカラー, 144頁
定価(本体4,500円+税)
医歯薬出版刊



周知のことだが、本書の著者である OTOME グループのファウンダーの山本浩正氏と私は、“仲”が良い。とは言っても、いつも学会でつるんでいるとか、家族で一緒に旅行するとかいった類の仲の良さではない。ただ何となく“ウマが合う”のだ。お互い、決して人付き合いの良いほうではないし、開業地も出身大学も違う。もしかしたら人生の価値観や趣味、嗜好すらかなり違っているかもしれない。思えば不思議な話だ。

ただし二人には、20年来頑として変わらない共通点がある。それは、「歯科衛生士(以下、DH)に対する大いなるリスペクト」だ。つまりこの一点によって、長きにわたって友人であり続けることができたのだと思う。遠い過去を振り返れば、おそらく私たちは「優秀なDHと出会えた(DHが育った)時の成果と、そこから得られる幸福感」にいち早く目覚めた歯科医だったのではないかと思う。

さて、本書の紹介だが、ズバリ！「DHの、DHによる、DHのための優れたスキル指南書」である。何のため

のスキルか？ もちろんペリオ攻略のためのスキルだ。

歯周病の病因がバイオフィーム状のデンタルプラークであることが明確になった現在、これを可能な限り除去し、継続した病状安定を維持するために、いまやDHなしの歯周治療は考えられない。その実践的手法について10年以上も“教えながら学んできた”PEC(Postgraduate Education Course)の講師陣たちは、自分たち流の“やり方”を果敢にも“OTOMEメソッド”と名付けた。この命名は本物のプロとして第一線で活躍する彼女たちの並々ならぬ自信とこだわりの表れだろう。

内容はきわめてオーソドックスだ。まずChapter1で歯周治療の原則とDHの関わり方、Chapter2で歯石や根面を触知するための基本を学ぶ。さらにChapter3でシャープニングとスクレーリングの器具操作、Chapter4で状況に応じた具体例、Chapter5で超音波スクレーラーの歯肉縁下領域への応用、Chapter6でPMTCとエアポリッシングを順次学んでいく。

PECの実習コースを基本にしているせいか、あるいは執筆者が担当制になっているせいか、最初から順番に読み進めていくと、一部の読者にはやや荷が重く感じるかもしれない。だから、著者らも冒頭で書いているように、「フローチャート式の目次に沿って、苦手な項目を確認したり、気になる章や関連項目に飛んでみたり」と自由に読んでいただいて一向にかまわない。大事なことは、いま自分が「何ができて、何ができないか」の把握なのだ。本書を生かすも殺すも読者次第、まさにOTOME=Owe to Me(読者自身に責任がある)なのだ。

ページのそこそこに肩の凝らないコラムが挿入されていて読みやすい。また、本書では多く触れられていないが、各種器具操作の背景には、OTOMEたちのポストである山本浩正氏の「文献に裏打ちされたエビデンス」があることも付記しておきたい。詳しくは「ペリオリテラシー 歯周治療をめぐる情報のインプット・英知のアウトプット」(医歯薬出版、2013年)と合わせてご一読されることをお勧めする。